

子ども読書支援センターニュース No.176

2019. 1. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成31年2月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

（1月のおはなし会で使った本）

『ばけこちゃんのおしょうがつ』（紙芝居） 荻田澄子/脚本 中谷靖彦/絵 童心社 2014

『びっくりこたつ』 新井洋行/作 講談社 2014

『やまのおふるやさん』 とよたかずひこ/さく・え 講談社 2014

『だるまさんが』（大型絵本） かがくいひろし/さく ブロンズ新社 2010

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『ゆき』 はたこしろう/絵 ひさかたチャイルド 2018.11 ¥1000

「ゆきやこんこ、あられやこんこ。ふってはふっては、ずんずんつもる。やまものはらも、わたぼうしかぶり、かれきのこらず、ながさく。」日本人に親しまれている文部省唱歌の「ゆき」の1. 2番の歌詞にあわせて、雪景色や楽しそうに雪遊びをしている子どもたちの姿を愛らしい絵で描いた絵本。巻末には楽譜も掲載。冬に読むのにふさわしい1冊。

<絵本—3, 4歳から>

『おにのおにいさん』 さいとうしのぶ/作・絵 ひさかたチャイルド 2018.12 ¥1200

お肉が大好きな鬼のお兄さん。人間のすむ町のレストランでステーキを食べたいけれど、今日は節分。鬼だとばれたら大変だ。人間の格好に変装して町に出かけたが、「おにんぎょう」「おにごっこ」など、「おに」がつく言葉を聞かなくて、びくびくどきどき。さあ、ちゃんとステーキは食べられるかな。「おに」がつく言葉と絵がたくさんで、ユーモアたっぷりの絵本。

<絵本—5, 6歳から>

『わたしのおじさんのロバ』 トビー・リドル/作 村上春樹/訳 あすなろ書房 2018.12 ¥1400

もしおうちのなかでロバを飼ったら？わたしのおじさんのロバは、お気に入りのいすにすわったり、台所でさかだちをしたり、ジャグリングをしたり、しましまのくつしたをけいたり、ピアノだってひいちゃう。やりたい放題のロバと淡々と生活をしている様子のおじさんとの関係は？ロバが観ている映画や食べている花に見覚えのある作品が使われていたり、遊び心がいっぱい楽しい絵本。

『だいじょうぶじゃない』 松田もとこ/作 狩野富貴子/絵 ポプラ社 2018.12 ¥1400

小学校1年のぼくは、夏休みに大好きなおばあちゃんの家に行った。畑仕事が好きなおばあちゃんは、山の中の軒先に一人で暮らしている。でも、畑には連日サルたちが現れ、せっかく作った野菜を食い荒らしていく。秋にはイノシシもでるし、おばあちゃん、本当にだいじょうぶなの…。祖母を思う孫と気丈な祖母の思いやりや、里山の現実を描いた絵本。文作者は岩国市美和町在住。

<絵本—小学校低学年から>

『めかどこすけ！』 かとうまふみ/作 あかね書房 2018.11 ¥1300

おいらは、せとものやの売れ残りのかめ。だが、ある日奇跡がおきた。おいらを手にとってくれたばあちゃんがいたんだ。中に入れてもらったものを大事に守ってやろうと、おいらははりきった。だけどばあちゃんはおいらになんだかくちやくちやしたものをぎゅうぎゅうつめこんで…。めかどこはおいしい小宇宙。スーパー発酵食品めかづけの秘密がわかる楽しい絵本。

『かんけり』 石川えりこ/作 アリス館 2018.9 ¥1500

ちえちゃんは、引っ込み思案な女の子。学校帰りに友達7人と「かんけり」をして遊ぶことになり、ちえちゃんは仲良しのりえちゃんと、物置き小屋に隠れた。でも、みんなを助けようと小屋から飛び出したりちえちゃんは、つかまってしまった。りえちゃんたちを助けるために、ちえちゃんは勇気を出してかんをけりに飛び出せるのか…。子どもの微妙な心の動きと成長を鮮やかに描いた絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『にんじゃもへえ』 市原麟一郎/文 狩野富貴子/絵 高知新聞総合印刷 2018.10 ¥1200

ろくにめしも食わせない庄屋さんの家を追い出された「もへえ」はてんぐに弟子入りすることに。兄弟子の「いちのじょう」とふたりで忍術を習う。長くつらい修行を終えたふたりは困っている人を助けるために奮闘する。高知県に古くから伝わる昔話で、「もへえ」は実在の人物。お墓もあり忍術の修業をした洞窟も残っている。痛快な結末が楽しい昔話絵本。

『はらぺこゾウのうんち』 藤原幸一/写真・文 偕成社 2018.11 ¥1600

赤道近くの南アジアの国。温暖化による干ばつで、ゾウが生きていくための豊かな森と水辺が奪われた。飢餓状態で人間のゴミ捨て場にたどり着いたゾウは、ガラスやナイフ、オムツなどが混ざった危険なゴミをレジ袋ごと食べる。その結果、ゾウのうんちにはレジ袋がたくさん混じり、命を落とすゾウもいる…。熱帯雨林のジャングルに起きている異変を写真で伝えるノンフィクション絵本。

<読み物—低学年から>

『二年二組のたからばこ』 山本悦子/作 佐藤真紀子/絵 童心社 2018.11 ¥1000

二年二組の教室にある、たから君専用の「たからばこ」。このたからばこ、あつという間にいっぱいこ。たから君が大量に落とし物をしてしまうからだ。ある日、特別教室のカギが無くなり、みんなで探すことに。クラスメイトのみなは、いつも物を大切にしないたから君のせいに違いないと決めつけてしまうが、実は…。様々な個性の友だちを受け入れるヒントをくれる作品。

<読み物—中学年から>

『アリーナ姫の冒険』 ダイアナ・コールズ/著 ロス・アスキス/絵 グループ ウィメンズ・プレス/訳 大月書店 2018.11 ¥1500

宝物が何よりも大切だと考えている王様は、山ほどの宝石を差し出した魔法使いボックスと、一人娘のアリーナ姫を結婚させることに。ボックスは、「アリーナ姫はやがておまえを殺すことになる」と占い師に予言され、そうなる前に姫を殺してしまおうと企んでいたのだった。あの手この手で姫を陥れようと策略するが、賢い姫は、知恵を働かせて生きのびていく。30年前刊行本の復刊。

『転校生は忍者?!』 もとしたいづみ/作 田中六大/絵 佼成出版社 2018.11 ¥1300

10歳になり、本格的な忍者修業のために、東京のひいおばあちゃんちに越してきたくのいしのしのぶ。忍者であることは、転校先の誰にも知られてはならない。ある日、クラスの女の子の色鉛筆12色セットが無くなる。様子が変な男の子たちをまざとく発見したしのぶは、尾行を開始。果たして犯人と断定することはできるのか。思わず取ってしまう、しのぶの忍者っぽい行動が愉快な作品。

<読み物—高学年から>

『ぎりぎりの本屋さん』 まはら三桃・菅野雪虫・濱野京子・工藤純子・廣嶋玲子/著 講談社 2018.10 ¥1400

商店街の奥にある、なぜかつぶれないぎりぎりの本屋さんに来るのは、何かこじ追われているぎりぎりのお客さんばかりで…。本屋でトイレを借りた秋吉菜菜子とその友人柳井菜子、ぎりぎりお金が足りない谷川荒太と菊川健介、ぎりぎりで気になっていた本を買わない長門菜月。児童文学のトップランナー5人によるリレー小説『ぐるぐるの図書館』に続く第2弾。

『107小節目から』 大島恵真/著 講談社 2018.9 ¥1300

スイミングスクールで毎日泳いでいる時、小6の由羽来(ゆうら)の頭の中には、交響曲「新世界より」が流れている。それは、苦しさを忘れるため。本当はスイミングなんか辞めて音楽を習いたい。不機嫌で暴力的な父親、心を閉ざす母親のいる家にも帰りたくない。多感な少女の目線で書かれた作品。第58回講談社児童文学新人賞の佳作に入選した応募作に、加筆・修正した作品。

<読み物—中学生から>

『マレスケの虹』 森川成美/作 小峰書店 2018.10 ¥1500

ぼくのじいちゃんも苦労人の移民一世。ハワイで生まれたぼくは二世なのでアメリカ市民。14歳になったぼくに、担任の先生は本土の大学への進学を進めるが、1941年12月、日本軍が真珠湾を攻撃。ぼくらの運命は大きく変わってしまった。日系人連隊に志願して戦場に向かった兄は…。日系二世の少年「マレスケ」の目を通して見た戦争、当時の日系人の生活や心情を丁寧に描く。

『サイド・トラック 走るのニガテなぼくのランニング日記』 ダイアナ・ハーモン・アシャー/作 武富博子/訳 評論社 2018.10 ¥1600

ADD(注意欠陥障害)があり、授業を聞いていられなかったり、同級生にからかわれたり、日々心配事が絶えない中学生のジョセフ。運動が嫌いなのに、新たにできた陸上部でクロスカントリー走をすることに。ガチョウのふんやピストルの音などの苦手を克服し、ひたすら自己ベストを目指す。家族の絆や友情、あきらめない心の大切さを、ADDの少年の視点からユーモラスに描く。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ともだちってどんなひと?』 赤木かん子/著 濱口瑛士/絵 埼玉福祉会出版部 2018.10 ¥1800

「ともだちってどんなひと?」「しってるひとはみんなともだちな?」「あなたのことをわらうひと、わるくちをいうひとは、ともだちではありません。」「ともだちは、あなたがすきだとおもうひとです。」知的障害の方だけでなく、すべての子どもたちや大人にも、優しく伝えるために作られた、LLブック。挿絵は、ディスレクシアを公表している、16歳の注目の画家。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『世界の子どもたち ②ぼくの、わたしの、世界の誕生日』 マーグリート・ルアーズ/文 アシュレイ・パロン/絵 大西味/訳 鈴木出版 2018.12 ¥2500

君の国では誕生日はどうやって過ごす?「友だちや家族が集まって、お祝いしてくれるよ。」「おいしいパイやクッキーを学校に持って行って、クラスみんなにふるまうんだ。」「神様をおまつりして、祈りを捧げるよ。」世界各地に住む子どもたちの生活を、豊富なイラストとともに紹介するシリーズ。他に『ぼくの、わたしの、世界の家族』『ぼくの、わたしの、世界の学校』の全3巻。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『クジラのおなかからプラスチック』 保坂直紀/著 旬報社 2018.12 ¥1400

普段の生活のいたるところで使用されているプラスチック。これが一旦ゴミになれば、自然に分解されることなく、いつまでも地球を汚したままになる厄介者。死んだクジラのおなかから、80枚を越えるレジ袋が見つかったり、東京湾で獲ったカタクチイワシの、約8割の体内からマイクロプラスチックが見つかったりという、プラスチックごみの最新の実態を詳しく知ることができる本。

<ノンフィクション—中学生から>

『宇宙飛行士に聞いてみた! 世界—リアルな宇宙の暮らし Q&A』 ティム・ピーク/著 柳川孝二/監修 日本文芸社 2018.12 ¥1800

宇宙で一番怖かった瞬間は?浮遊する最大の魅力は?ISSで火事が起きたら?スペースデブリがISSにぶつかったら?ツイッターやフェイスブックなどで寄せられた、打ち上げ、訓練、国際宇宙ステーションの暮らし、船外活動などに関する様々な質問に、イラストも交えながら楽しく答える。著者は、国際宇宙ステーションに186日滞在した、欧州宇宙機関(ESA)所属の宇宙飛行士。

<研究書>

『子ども文庫の100年 子どもと本をつなぐ人びと』 高橋樹一郎/著 みすず書房 2018.11 ¥3000

戦後、子どもに本を届けたいとの思いから全国各地の有志が開設した「子ども文庫」。文庫の実態を全国を廻って調べ、文庫の歴史や果たしてきた役割、運動の意義を明らかにし、その全体像を示す。少子高齢化で閉鎖されていく中、文庫に関わってきた人々の記録を残し、網羅的に考察した今後の研究の基礎となる一冊。「子どもBUNKOプロジェクト」をもとに執筆。